

『55・10』に続く新たな攻撃！乗務員運用合理化



80.10.12

No. 69 全国版

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八〇九(公衆電話)五三二七二〇七

35万人体制への道をはき 清める「本部」反動分子

全国の動労組合員のみならず、「本部」反動分子による裏切りは職場の売り渡し策動を断固糾弾しなければなりません。この間、「本部」反動分子が「五五・一〇」ダイ改交渉を通して、国電乗務員の運用合理化に対する裏切りの妥結をしていたことが明らかに、東京管内をはじめとする職場の中で、怒りの声が大きく噴出していきます。



全国の乗務効率を
十一年も前のレベルにひきもどす

この乗務員運用合理化が、全国の乗務員運用効率を「五六・三」「五六・一〇」を期して「昭和四十四年(一九六九年)のレベルにもどす」という当局のあからさまな宣言のもとに行なわれているという事実を、まず第一に見なければなりません。

つまり当局は「五五・一〇」に引き続き、五六年(一九八一年)度においても、乗務員運用効率を昭和四十四年(一九六九年)のレベルまで悪化させるという形での三五万人体制攻撃を宣言しているものであり、今回の東京における国電乗務員に対するそれは、当局にとって、「五六・三」または「五六・一〇」へ向けた布石であり、突破口だということなのです。

この乗務員運用合理化は、国労、動労中央の「五五・一〇」における屈服路線を見極めた権力・当局が三五万人体制へ向けた第二の攻撃として、いよいよ本格的にのり出して来たということを示しており、三五万人体制への道をはき清める国労・動労中央の犯罪的とも言える路線的誤まりは全国鉄労働者の名によって、断固糾弾されなければなりません。

動労の戦闘的伝統を汚す裏切り！

とりわけ、乗務員の多数を組織する動労「本部」反動分子の裏切りは犯罪的であり、今や彼等が、労働者の感性のひとかけらも持たない「当局の武装親衛隊」合理化の尖兵」になり下ったことの何よりの証として、この乗務員運用合理化が突き出されているのです。

「四四年(一九六九年)度」から今日まで、乗務員はもちろん、地上勤務者も含めて、労働条件向上のために、多くの血と汗を流した「絶対反対」の闘いがあった、動労は「愚直と言われようが原

則的に闘おう」という全体的な合意の上に、強固な団結を築いてきたと言えます。

武操合理化への屈服に始まり、「貨物安定宣言」
「大胆な妥協」と続き、第一〇九中央委員会においては、「もうストライキでモノが取れる時代ではない」と公言するに至った「本部」反動分子の腐敗堕落こそが、今こそ問われなければならぬのです。セクト的暴力をもって職場・生産点の当然の要求を圧殺し、一方では、総評・富塚事務局長を下劣な言葉で口汚くののしる方針を機関で「確認」し、その実、自らは当局とのゴルフにウツツを抜かず——このような労働運動ならざる「労働運動」で、職場を守ることも、労働者の要求を獲得することもできるはずがない、という事実を、今回の乗務員運用合理化は、はっきりと示しています。

決起しよう！

全国の動労組合員のみならず！
今、動労千葉に対して、「東京三局は国労・動労とも妥結した。千葉が決まらな」と一月一日実施ができない」という形の攻撃が一せいに開始されています。

燃料暫定貨車輸送延長阻止、「国鉄三五万人体制」粉碎の路線を堅持する労働組合「動労千葉を叩きつぶそう」という、権力・当局と右翼的労働組合の共通の利害からくる新たな組織破壊攻撃であることとをしっかりと受けとめ、「密集せる反動」をのり越え、真に労働者の未来を切り拓くために労働組合の原則を守り、闘い抜く決意です。

「本部」反動分子の「五五・一〇」裏切り「乗務員運用合理化裏切り妥結を弾劾し、「三五万人体制」攻撃をうちやぶる闘いを構築しようではありませんか。「本部」反動分子一掃「動労大改革」へむけてともに決起しようではありませんか。